



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

## エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

# 仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

## 第26回 空海さんの謎

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

このところ、頭のなかが空海さんで一杯です。「一杯」と言うのはいささか大袈裟かも知れませんが、少なくとも頭の7割か8割は、空海さんのことで埋まっている感じです。というも、ただいま私は空海さんがテーマの小説を書き下ろしております、そのストーリーがいよいよ佳境に入って来たのです。それが原因で、寝ても醒めても空海さんのことが頭から離れなくなりました次第。食事をしていても、

「空海さんの実家で使っていた食器に漆(うるし)は塗られていたと思う？」

愛犬を撫でながらも、

「空海さんの伝記には、犬にまつわるエピソードは何度も登場するけど、猫のエピソードはひとつもないのよね。空海さんは猫を飼わなかったのかな？」

自分の髪をブラッシングしながらも、

「空海さんの子ども時代の髪型は、みずら(大国主命のような髪型)とかむろ(おかつぱ)のどちらだったと思う？」

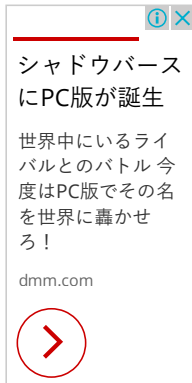
……といった感じで、何をしても話が空海さんに結びついてしまうわけです。なにしろ空海さんの「個人情報」はびっくりするほど少ないので、ひとつひとつがミステリーなのです。

そばにいる家族や友人の身になってみれば、たまったものじゃないでしょうが、どうも私のまわりには優しい人が多いようで、もしかしたら心の中では「困ったものだ」と思っているしゃるかも知れませんが、誰ひとりとして、

「いいかげん、空海さんの話はやめなさい！」

と怒りだす人はなく、それどころか私と一緒に真剣になって考えてくれるのです。本当にありがたいことです。

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



ちなみに、上に書いた事柄のうち「空海さんは果たして猫を飼っていたかどうか」という疑問に関して言えば、私が書いている小説の中では、空海さんは子どもの頃から猫を飼っていたという設定になっています。

ただし、そんなことは歴史の本を繰ってみてもどこにも書かれていないのですが、空海さんが置かれた生活環境から推理してゆくと、複数の理由から、猫を飼っていたと考えるほうが理に叶っているように私には思えるのです。

理由のひとつは、言わずと知れた「ネズミ駆除」。空海さんの実家は讃岐の国の豪族ですから、ネズミに齧られては困る木簡(今でいうところの書類)や、村人たちから税として徴収したお米などが山ほど保管されていたはず。

その倉庫に、大陸から連れて来られた猫が飼われている。背中を丸めてコックリコックリ眠っている猫の姿がそこにあっただろうが、小説としては格段に絵になるように思うのですが、いかがでしょうか。

ちなみに、猫が本格的に日本に入って来たのは、仏教伝来(6世紀)以降のことといわれます。遣隋使や遣唐使の船に積まれていた経典をネズミから守るために猫が乗せられたそうですから、当時の日本人にとって、猫はまだ物珍しい“外来種”と見られていたかも知れませんね。

もうひとつ、空海さんが猫を飼っていたと思う決定的な理由があるのですが、これを書く小説のネタバレになってしまいますので、今は秘密にしておきます。

いずれにしても、空海さんが自宅で猫を飼っていたかどうかを考えるだけで、日本史がにわかにも身近なものに感じられるから不思議ですね。

さて、先日、ふと思い立って奈良へ行ってきました。

ご存知のように、今年は平城京遷都1300年祭ということで、奈良ではさまざまな催し物が行なわれています。そのなかで私の目当ては、復元された平城宮跡に展示中の「遣唐使船」をこの目で見ることでした。

遣唐使船は、西暦630年から200年以上にわたって、のべ数千人の遣唐使節を運んだ船。一隻あたりの乗船者数は、平均150人程度だったそうです。

空海さんが乗船したのは804年出航の第18次遣唐使船で、ここには、のちに天台宗を開く最澄さんや、日本人として唯一「三蔵法師」の称号を与えられながら唐で非業の死を遂げる靈仙(りょうせん)さん、それに空海・嵯峨天皇とならんで「三筆」のひとりに数えられる橘逸勢(たちばなの・はやなり)さんなど、後の世の人間から見たらまばゆいほどの豪華絢爛たるメンバーが乗り組んでいました。

このように、遣唐使船は「どの船に誰が乗ったか」に関しては、ある程度わかっているのですが、それが「どんな船」だったかを示す資料は、残念ながらほとんど残っていないのです。

遣唐使船を描いた絵画のうち、現存する最古のものは『吉備大臣入唐絵巻』(ボストン美術館・蔵)ですが、この絵が描かれたのは平安時代末期の12世紀のこと。つまり、遣唐使が廃止されてから300年ほど経ってから描かれた作品なのです。

これが実際の遣唐使船と、どれくらい似ているのか、あるいは似ていないのか。本当のところはわかりません。

そういう事実をふまえた上で平城宮跡へ行ったら、やはり『吉備大臣入唐絵巻』をほぼそのまま原寸大で復元した見事な船が展示されていました。空海さんもこのような船に乗られたのかと思うと、感無量でした。

ただし、乗船した150人が数週間にわたって滞在した部屋はどんなデザインだったのか、トイレはどうしていたのか、といった「生身の人間」を考える上でいちばん大事な事柄に関しては、どうもよくわかりませんでした。

しかし、それは無理もない話かも知れません。なにしろ当時の船は、今でいえばロケットに匹敵するような最先端の技術だったでしょう。

また、遣唐使は朝貢(ちょうこう)というデリケートな任務を帯びた外交船でもありましたから、船の設計図は、国家の機密事項だったかも知れません。

のべ数千人も遣唐使が乗った船でありながら、誰ひとりとして詳しいデザインなどを書き残さなかった(少なくとも今日まで残っていない)ということは、よほど厳しい緘口令(かんこうれい)が敷かれていたのかも知れませんね。

そういえば話は変わりますが、先日、第二次世界大戦中に日本軍の戦艦の設計をしていたという男性にお会いする機会がありました。90代も半ばにさしかかったこの男性は、とびきり優秀な頭脳の持ち主で、なんと「戦艦大和」の設計図を今も完全な形で記憶しているということでした。

それを公にするお気持ちはないのですか、と私が尋ねると、男性は、

「この情報は墓まで持ってまいります」

という意味のことをお答えになりました。

これはあくまでも私の想像ですが、空海さんをはじめとする遣唐使船に乗った人たちも、もしかすると、こんなふうに関の秘密をお墓まで持って行ったのかも知れませんね。空海さんの謎については、また折にふれて書かせていただきたいと思います。

◀ 第25回 私の知らない私 第27回 人間と占い ▶

## 山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



簡単に工程表作成

プロジェクトの進捗・実績管理 手軽に使える Project Canvas  
rumix.co.jp/pc/へ進む



① ×



© 2002-2016  
真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)  
[しいなまち みとら](#)  
[こんごういんキッズ](#)  
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)  
[唱えてみよう!](#)  
[ないけんしてみよう!](#)  
[東京お寺めぐり](#)  
[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)  
[仏教いちねんせい](#)  
[まんが 小坊主くん!](#)  
[ぶつ仏クイズ](#)  
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)  
[金剛院NewS](#)  
[金剛院について](#)  
[金剛院の四季](#)  
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)  
[おすすめリンク集](#)  
[バックナンバー](#)  
[サイトマップ](#)

## 社長が見たくない動画

あなたが既に「起業してしまった」なら この動画をすぐに見る事をすすめます。 [directsales.jp](#)へ進む

